

講義名	地域ボランティア実習			
担当教員	北村 裕美 / 関 和俊			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	実習	
履修開始年次	3年生	単位数	1	備考

主題と概要

本実習は、神戸市西区と本字との連携事業の一環として、実際に住民の健康づくり活動を展開していく科目である。学習の場を学内から現場に移し、地域での健康づくり活動を通して、これまでに学習してきた健康づくりに関する知識や接遇技術を実践し、参加者を楽しませたり、喜ばせたり、癒したりできるコミュニケーションスキルの習得を目指す。本講義は、「地域ボランティア論(木曜1限)」と同時履修することが必須条件である。

到達目標

地域住民のニーズに対応した健康づくりの運動プログラムと指導法を説明できる。
健康づくりの運動指導に必要なとされるコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。

提出課題

振り返りレポート

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

個別に講評する。

評価の基準

取組状況・・・75%
振り返りレポート・・・25%

履修にあたっての注意・助言他

道則(10分まで)2回で1回欠席とみなし、4回欠席で単位認定しない。
感染予防に向けた生活や受講ルールを遵守すること。
本講義は、「地域ボランティア論(木曜1限)」と同時履修することが必須条件である。
指導技術の習得には各指導者が大切である。実際の場面を想定し、動きと共にセリフを声に出しながら練習すること。
地域(区長センター「長岑り駅」長岑り駅・西津中央駅)活動の際は、大学に集合した後公共交通機関を使用して移動する。
本実習は、神戸市西区と本字との連携(インターンシップ)事業であるため、運動指導や保健事業に興味・関心ある者や「健康運動実践指導者」の取得を目指す者は履修を推奨する。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

適宜、資料を配布する。

授業計画

1. ガイダンス
2. ストレッチ指導方法の習得
3. レクリエーション指導方法の習得
4. 筋力トレーニング指導方法の習得
5. 実践実習 (地域での健康指導)
6. 実践実習 (地域での健康指導)
7. 実践実習 (地域での健康指導)
8. 実践実習 (地域での健康指導)
9. 実践実習 (地域での健康指導)
10. 実践実習 (地域での健康指導)
11. 実践実習 (地域での健康指導)
12. 実践実習 (地域での健康指導)
13. 実践実習 (地域での健康指導)
14. 実践実習 (地域での健康指導)
15. 活動報告・振り返りとまとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="checkbox"/> ア: PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ: グループワーク
<input type="checkbox"/> オ: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

<予習>2時間
毎回の指導担当が変わるため、各プログラムの指導のポイントを押さえ、それぞれのセリフを覚えておく。特にステージでの指導は対面となるため、動作の方向とセリフとの対応を理解しておく。
<復習>2時間
教員からのコメント、参加者アンケートなどを参考にして指導の反省点をまとめ、出来なかった点および修正すべき点を抽出する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本実習を通して、健康づくり運動に関する効果的な指導法を身につけることができ、ディプロマポリシーに大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

新型コロナウイルス感染症の状況次第では、シラバスの修正があります。